

会報神奈川

令和2年5月30日発行

発行責任者 神奈川県神道青年会会長 川辺浩司
〒222-0002 横浜市港北区師岡町1137 電話 (045)531-0150

神奈川県神道青年会創立70周年 「生児八十綿連～うみのこのやそつづき～」



この度、新型コロナウイルス感染症にて亡くなられた方々のご冥福をお祈りすると共に
罹患された皆様の早期回復と感染の早期終息を心よりお祈り申し上げます。



神奈川県神道青年会



<http://www.k-jinja.jp/seinenkai/>

会長挨拶

神奈川県神道青年会
会長 川辺 浩司



先ず以て、天皇陛下におかせられましては、御大礼に伴う諸儀が厳肅に御齋行されましたこと、誠に慶賀の極みと會員を代表してお慶び申し上げます。

令和元年十月二十二日、「即位礼正殿の儀」の当日は午前中から激しい雨が降っていました。天皇陛下が高御座で御即位を宣明される際には、雨が止み宮中に光が差し込みました。皇室の弥栄と、私も日本人が一二六代にわたる天皇陛下を戴いていることの誇りを改めて感じる瞬間でありました。皇室敬慕の念をより広く喚起できるよう、この令和の御代においても継続して活動して参ります。

さて、昨年は台風十五号、十九号が連続して関東地方に上陸し、神奈川県においても甚大な被害が発生しました。当会では台風上陸後、県内の被災神社への支援活動を検討しましたが、被災状況の詳細な把握が困難である中、台風十九号発生後には被災地域への迅速な行動が必要と判断し、県内で

最初に災害ボランティアセンターが開設された川崎市において復興支援活動を行いました。役員会における支援活動実施の決議から活動実施日まで限られた時間の中、総務局を中心に會員への連絡や諸準備を行い、実際に二日間に渡る支援活動に参加できた會員は少数でしたが迅速な支援活動を行うことができました。来年は東日本大震災の発生から十年を迎えますが、この度の支援活動に関わる経験を今後の自然災害発生時における当会の対応を検討する上で有意義なものとなるよう、これからも防災意識の宣揚に努めて参りたいと思います。

又皆様周知のとおり、この度の新型コロナウイルス感染症は拡大の一途をたどり、四月七日に政府より緊急事態宣言が発出されるという未曾有の事態となりました。現在も収束の目途が立たず、外出自粛要請もある中で、會員参加による役員会等の実施が困難なことから、当会の活動も限定的な対応を余儀なくされております。これまで會員相互の活発な議論の下、このような事態を懸念することなく当会の活動が展開することが出来た有難さを今は実感するばかりです。しかし、再び多くの會員が集い、語り合い、行動することが出来る日を見据え、今は會員一人一人が自己研鑽を積み、力を蓄える時

間と捉え、この事態の一日も早い収束を會員一同で祈り続けたいと思います。

結びに、当会の活動がこれまで活発に展開することができずのも神奈川県神社庁をはじめ、県内宮司、先輩諸賢、又関係諸団体の深いご理解とご協力によるものと、心より感謝申し上げます。現在は限定的な活動を粛々と継続することとなりますが、事態の収束後には斯界の尖兵として、青年神職らしく活発な活動を皆様にご報告することが出来るよう尽力することをお誓い申し上げ、新年度にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

神奈川県神社庁御用達

株式会社 クレックス

代表取締役 近藤 栄人

〒194-0014 東京都町田市高ヶ坂六十八-1 〇番地
電話 〇四二七二八-八九四(代)
FAX 〇四二七二八-三五六三

社殿造営・神棚神具製造

有限会社 俵田屋

ひょうたや

代表取締役 田中弘紀



〒516-0026 伊勢市宇治浦田二丁目 〇ノ三八
電話 〇五九六-二三三九〇五
FAX 〇五九六-二三三九〇八

創業百有余年

— 伝統の技術を活かした授与品作り —

神奈川県神社庁をはじめ
全国各神社でご利用頂いております。

神符・守札・木札・金欄御守・御朱印帳
交通安全守・彫り木守・その他各種授与品

ご一報いただければカタログ送付致します

株式会社 丸井紙店 TEL 055-272-0136
FAX 055-272-3966

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門763

シリーズ 言霊



神奈川県神社庁
箱根神社
副庁長 宮司

小澤修 二

みました。

「守破離」は居合道師範福井清一先生から教わった大好きな言葉です。

守破離

初めの「守」とは、指導者の教えの全てを正しく修得すべく徹底的に模倣する。与えられた手本・型をどんな時でも教えの通り忠実にこなすようになるまで修練すること。

つまり、あらゆる物事の最初はひとりよがりの判断は許されず、指導された手本・型を言われた通りにやってみること、そして一つの間違いも無く出来るかどうかが大事で、絶対にそれ以外のやり方をしてはならない。初めてやるのに疑ったり批判する者に学ぶ資格などない。正しい理解は忠実にやる事によつてのみ可能になるのである。

次の「破」とは、指導者の教えを全て自分のものにした上で、自分で新しい創意工夫を加えて応用し、自

分なりの発展を試みることに。修得した教えに自分の個性を加えて更に成長して行こうと云う段階である。

おさめの「離」とは、自分の創造力と努力によって、指導者の教えから脱皮し、更に修練を積み重ねて、自ら一つの境地を築き上げるといふ最終段階である。ここに来て初めて今までの教え導かれた道のりから、自分自身の個性・生き方そのものが現れ、新たな道を開進する達人となります。この夫々の段階で、手本や型と心が共に歩みを進めているのは言うまでもありません。

一杯のお茶の入れ方から、自身の生き方の確立まで守破離の教えは、日常の暮らしの中に現れる全ての物事を修めるためにあります。故にどんな場面でもどの段階かを考えて、それぞれに取組んで行けば、必ず素晴らしい結果に繋がって行くと云うものですが、中々修得出来ないのが悩みです。

宮司の視点で

神社の職員である限り、今の事も将来の事も、大事も小事も、何事に於いても職称に関係無く、全員が宮司の視点で考え協議して業務を進めて行くのが私の理想です。経験云々は論外、常に全体を見つめつつ個人

の業務をきちんと遂行出来る神主で溢れる神社は永久に発展を続けます。

何事も、進める事。

神の御心に添って周囲の意見で豹変せよ

先輩や友人、一緒に進む仲間（戦友）の意見を良く聞く事は重要です。それにより自身の考えも行動も豹変が叶うからです。

最初に一番いやな事をやれ

是は私の奉職に際して、小さな兼職神社の宮司を務める父からの言葉です。

面倒逃行癖のある心の弱い私は、この言葉の実践により平静な心が保て、穏やかな業務遂行の源となりました。期間の長短纏めて行うべき業務は誰でも常に十以上は書き出せると思います。その中でいやな案件は常に心に重くのしかかり、時間の経過と共に心が衰退してしまします。一番いやな案件が、その時点で業務執行順序の最後に位置しても、とにかく触って少しでも動かすことで、心がとても軽くなります。いやな案件が存外順調に進んだり、思っていたより簡単だったりもして、それに抱って好きな案件、やりたかった案件の処理速度は格段に上昇したものです。あら終わっちゃった。では納めに前回踏襲で進歩は止まる。

御装束・御社殿装飾調度・祭器具
家庭用御宮各種・授与品・記念品

(株) 高善装束店

代表取締役 桑 茂雄

〒113-0021 東京都文京区本駒込 3-2-9

TEL 03(5815)8771

FAX 03(5815)8772



〈営業品目〉 ●交通安全御守護
●開運招福鈴
●文鎮 金盃
●各種記念品類
●胸像・レリーフ・铸造類

鈴木徽章工芸株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-12-1
TEL 03-3814-1811 FAX 03-3818-8332
E-mail: info@suzuki-kisho.co.jp
http://www.suzuki-kisho.co.jp

活動報告

神青協創立七〇周年記念
国家平安祈願祭

副会長 守屋隆広



祈願祭（於波照間島）に三名の会員にて参列致しました。

当日は、高速船にて石垣島から日本有人最南端の島である波照間島へ渡航致しました。

強い日差しの中、関東圏の仲間と共に斎場である波照間の碑・聖寿奉祝の碑を目指し歩き、道中では学童慰霊碑に献花・拝礼、コート盛の見学など戦争の爪痕や島の歴史に触れながら向かいました。

斎場に到着し、早速、波照間の碑や聖寿奉祝の碑の清掃へと入りました。長い時間をかけ草が蔓延り、砂に埋

令和元年

十月三日、

神道青年全

国協議会

(金田祐季

会長) 主催

御大典奉祝

創立七〇周

年記念事業

「国家平安



もれた波照間の碑の道は、除草の後に積もりに積もった砂を道の外へと掻き出し、建立当時の道が見えるように素手で掘り進めました。



全国から集

まった会員が

心を一つに、

本来の碑の姿

を取り戻すべ

く清掃作業を

進め、並行し

て神青協役

員・九州地区

協議会会員に

より斎場が整

えられました。

午後一時半

より、西高辻

神青協副会長

の斎主により

「国家平安祈

願祭」が斎行

され、全国の

仲間と共に国家平安の祈りを捧げました。

現在では交通の便も良くなり二泊三日の行程でも訪れることができますが、波照間の碑建立にあたっては沖縄が本土復帰を成す前からの準備が行われ、先輩諸賢が島を訪れるたびに何週間という時間を費やし、米軍船なども借りての渡航であったと聞いております。先達の篤い思いや先の大戦での島民のご苦労などを知る貴重な経験となりました。

※学童慰霊碑 先の戦争にて西表島に疎開した波照間島の学童三二三名は全員マラリアに罹患、その際に命を落とした六六名の御霊を慰めるために建立された碑。

※コート盛 旧藩時代に船の監視や通報の為に煙を揚げた火番所。

※波照間の碑 昭和四十七年、沖縄祖国復帰記念として神道青年全国協議会をはじめとする全国青少年団体により、全国四十七都道府県の名石を持ち寄り建立された二匹の龍の背を道に見立てた巨大な碑。昭和五十年には復帰五周年を記念し、「国旗掲揚塔」も建立された。

※聖寿奉祝の碑 昭和六十年、御在位六十年を記念し建立された、「日の丸」の銘板が埋め込まれた碑。

内宮に一番近い宿

早朝参拝のご案内をしております

ゆとりとやすらぎの宿
神宮会館
伊勢神宮崇敬会

一ご宿泊に関するお問い合わせー

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL.0596-22-0001/FAX.0596-22-1517

Instagram好評配信中!

大切なイメージを
カタチにします。

オリジナルグッズ・記念品

KOWA

KOWA DISPLAY CO.,INC.

株式会社 晃和ディスプレイ

東京都目黒区目黒本町3-13-10 〒152-0002
TEL: 03-3792-0211 FAX: 03-3792-0925
ホームページ <http://www.kowa-dsp.co.jp/>



おきまして、稲作体験事業の稲刈りを行いました。

当会稲作体験事業におきましては、日本の基盤でもある稲作の伝統を子供たちにも体験してもらう事も目的とし、稲作にまつわる神事の体験を通して実りへの感謝の心を培ってもらえればと考えております。

当日は過
ごし易い陽
気となりま
したが、長
雨の影響で
ぬかるみも
あり約四十
名の参加者
は一緒に泥
だらけにな



元号が令和となり、最初の実りの秋を迎えた十月六日。伊勢原市にごさいます神奈川県神道青年会御神田に

稲作体験事業「稲作」を開催
企画部 部長 目黒久仁彦



りながらも、無事に収穫を終える事が出来ました。近頃は毎年参加される御家族も増え、中には手慣れた手つきで作業する子供たちの姿も見られるようになりましたが、今回は水分を含んだ稲穂に悪戦苦闘する姿も見受けられました。作業の後に話を聞いたところ、重くて大変だったと感想を述べつつも笑顔で答えてくれたのが印象的でもありました。また作業の合間には生き物を探し、周辺を走り回る子供たちの姿を見て、日常の中から自然と伝統が遠ざかる昨今、本事業の意義を改めて噛み締めた所でもあります。

また子供達と共に収穫を終えた稲穂は精米し、神奈川県下の各御社へと御奉献をさせて頂くと共に、神宮の神嘗祭に合わせて稲穂を御奉献致しました。



神話と伝統に触れる能楽体験講座
企画部 部長 目黒久仁彦

稲作を行った同日午後より、大山阿夫利神社能楽殿におきまして、「伝統と神話に触れる能楽体験講座」を

開催いたしました。会員の他にも、神奈川県敬神婦人会や一般の方々にもご参加頂き、能楽についての見識を深めました。

能楽は六百年以上の歴史を誇り、ユネスコの無形文化遺産にも選ばれた伝統文化の一つでもあります。今回の講座では観世流能楽師松木千俊氏をお招きし、実演の他、能面や能装束を実際に身に着ける体験も行いました。慣れない能面の視界やすり足、謡いなど戸惑いながらも楽しく能を実感することが出来ました。近年ではテレビや書籍などで能楽を目にする機会は少しずつ増えてまいりましたが、能楽そのものに触れる機会は滅多にないことが現状です。能楽の中には日本の神話を題材にした演目が多く残されており、その

中には神道の精神が色濃く反映されています。松木氏からは「能楽の持つ意味は国家の安泰と人々の平穏を願う祈禱である」とのお話を受け、改めて能楽の持つ精神性に触れることが出来ました。神職として神話、そして伝統文化をいかに次代へと繋げていくのか、改めて日々の学びが大切だと感じました。



”土佐絵自由自在”「既製サイズで我慢・・・」の時代は終わりました。
土佐絵で作る神具木工品は

森の道具屋

〒781-2120 高知県吾川郡いの町枝川177-3
TEL 088-850-4087 FAX 088-850-4076
URL <http://www.morinodouguya.ecweb.jp>
E-mail morinodouguya@titan.ocn.ne.jp

台風十九号被災地支援 ボランティア活動

総務局 局長 志村幸弥



令和元年
十月十二日
に関東・甲
信・東北地
方を襲った
台風十九号
は各地で観
測史上最大
となる記録
的な大雨と

なり、神奈川県内においても箱根町、相模原市、川崎市などで土砂崩れや家屋への浸水被害など、多くの死者・行方不明者を出す、甚大な災害となりました。

当会においては直後十七日に行った拡大役員会にて被災地域への支援活動を協議、いち早く災害ボランティアセンターが設立された川崎市での復興支援活動を決議致しました。

川崎市では高津区・中原区が特に被害を受けており、増水した多摩川の水が排水溝から逆流し、建物・道路が浸水被害に見舞われ、ボランティアセンターへの支援要請の多くも家屋や敷地内に流入した土砂の掻き出しや、水に漬かってしまった家具の運び出しでし

た。

支援活動にあたっての準備としては、水害時に懸念されている浸水地域の衛生環境の悪化を鑑み、アルコール消毒薬・次亜塩素酸ナトリウム系消毒薬・ハンドソープ・防塵マスクを会で購入、また当日の活動中の飲料を用意し、参加者各自には、ゴム手袋・ゴム長靴・長袖・長ズボンの着用での参加を伝達致しました。また多くの会員の参加を募るべく、十月二十一日・二十四日の二日間を活動日とし、支援活動に際しては被災地域の多くが氏子地域と重なる、当会山本監事の奉務する日枝神社様のご協力を頂き、日枝神社会館を拠点として活動を行いました

支援活動当日、参加者集合の後、災害ボランティアセンターで登録を行い、ボランティア保険へ加入（費用はボランティアセンターで負担）。活動場所は、前述の日枝神社の氏子地域である中原区山王町二丁目付近でした。山王町二丁目町会内でも救援要請を受け付けており、町会から指定され



た支援場所へと向かいました。



初日（二十一日）は七名の参加者で、個人宅の庭に入り込んでしまった土砂

の掻き出しと、放水用のホースを使い道路上の土砂の洗い流しを行いました。砂利の上や、家屋と壁との狭い空間にも土砂が入り込んでおり、作業は思うように進まず、この日は結局一軒のお宅の泥出し作業だけで終了の時間を迎えました。

支援活動二日目（二十四日）は、十一名の参加があり、午前中の作業は二班に分かれ、アパート内の家財の搬出と庭に溜まった汚泥の掻き出し作業を行い、午後の作業では三班に分かれ、家屋内の家財の搬出と道路に溜まった汚泥の掻きだしを行いました。泥水を吸い込んだ畳は異臭を放つと共にとても重く、男四人がかりでようやく運べるほどの重さがありました。

実際に被災地域に赴き、支援活動に従事するなかでこの度の台風の爪痕の深さを実感致しました。この度の作業もボランティアの支援がなければ各家

庭にて行わなければならない作業であり、高齢者や要介護者を抱える世帯などでは元の生活が出来るまで大変な時間がかかるであろうと感じられました。

災害ボランティアセンターは十一月二十四日に閉所しておりますが、現在も通常のボランティアセンターとして支援活動にあたるボランティアスタッフを募集しております。救援依頼も各区での受付となりましたが、依頼が入っている状況とのことで、未だ被害から復旧されていない場所があることを物語っております。



神奈川県内に限らず、今般の台風被害に遭われた方々の一日も早い復旧復興を祈念すると共に、我々青年会としては、災害に際して何が出来るかを常に模索し、迅速な対応が出来る体制を作り、自身が被災した場合をも想定し、防災減災についての造詣を深めて参りたいと思います。

秋の親睦バーベキュー

親睦部 副部長 上杉翔樹

令和元年十月四日、大井競馬場内にありますTCKバーベキューガーデン by THE BNCに於いて、会員二十名の参加を得て「秋の親睦バーベキュー」を開催致しました。

五月から約三ヶ月間、拡大役員会での呼びかけをきっかけにメーリングなどを通して全会員から幅広く事業案を募集する形を取り、スポーツ、暑気払い、ハイキング、ゴーカートなど色々な意見を頂戴した中で、役員会や部会等を経て、今回は最終的に親睦バーベキューの開催へ至った次第です。

遠方での開催となりましたが、多く



の会員にお集まり頂き、来る周年事業に向けて会員同士の絆がより一層深まったものと感じています。

これからの親睦部では、親睦を深める機会は無論のこと、交流を広める場として、情報交換の場として、時には屈託無く意見を論じ合う場として、限りある時間を有意義に過ごせる様な事業を模索して参ります。参加される皆様が意義のある貴重な時間を過ごせる様、心掛けて参りたく存じます。

全国戦歿学徒追悼祭

親睦部 部長 中村友郎

令和元年十月三十日、清々しい秋空のもと眼下に鳴門海峡を臨む兵庫県南あわじ市にある「若人の広場公園」にて「第二十五回全国戦歿学徒追悼祭」が斎行されました。

この「若人の広場公園」は、先の大戦において学業半ばで様々な軍需工場での生産に動員され、そこで亡くなった男女学徒を追悼する国内唯一の施設として、昭和四十二年に「戦没学徒記念若人の広場」として開設されました。その後、阪神淡路大震災などの影響で閉園を余儀なくされておりましたが、平成二十七年、恒久平和を願い、市民が憩える都市公園として再整備され開園されました。



追悼祭は平成七年より執り行われ、十七回目からは兵庫県神道青年会が祭典のご奉仕を担当されてきました。本年は二十五回目の節目の年にあたり、また神道青年近畿地区連絡協議会設立二十五周年の記念事業の一環という事もあり、全国青年神職の方々にも広く祭典奉仕が依頼され斎行される事となりました。

祭典では靖国神社巫女による神楽奉仕、さらには、海上自衛隊ラッパ隊の吹奏をはじめ、賛美歌奉唱、般若心経読経などが取り入れられ、宗教の枠を超えそれぞれの作法で学徒の御霊に対し慰霊の誠を捧げて参りました。また追悼祭に先立っては、世界平和の記念樹、椰の木植樹と、それに伴う碑文

誠実と真心で奉仕する

御守・授与品・参拝記念品奉製

天然石厄除開運腕輪守・天然石みくじ

御一報次第カタログ御送り致します。

グリーン産商株式会社

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL (06) 6702-6009 (代表) FAX 0120-34-2996

誠実奉仕、信用第一

神社本庁 御用達
國學院大學 推薦店
明治神宮 指定店

瀬戸装束店

〔営業品目〕

●神職御装束 ●神楽装束 ●神社調度
●祭器具のすべて ●神前結婚式場神祇設備

東京都中野区中野3丁目10番5号
〒164-0001 電話 03-3381-4927
FAX 03-3381-4927

取引銀行
三菱UFJ銀行中野駅前支店
普通預金No.0359145
郵便振替口座 00120-7-557201

の落成式が盛大に執り行われ、恒久平和への願いをより一層厚くした次第です。

賛助会員交歓会・忘年会

渉外部 部長 小泉匡史

令和元年十一月二十九日 ザ クラブ オブ エクセレントコーストにて「賛助会員交歓会」及び「忘年会」を開催致しました。

当日は、熊野神社宮司石川正人様をはじめとする賛助会員・顧問の皆様、また友好団体である神奈川縣神輿保存會の皆様にご臨席賜り、総勢六十九名の方々にご出席頂き、盛大に取り行いました。

今期は、当会七〇周年を迎え「生児八十綿連うみのこのやそつづき」を指針に事業活動をしております。

諸先輩方の築き上げてきた歴史や青年会に対する想いをお掛け頂いた言葉や様々なお話より感じ、私たちにとても大変貴重なものとなりました。

「繋ぐ・紡ぐ」という想いがある中で私たち会員はまだまだ知らない事があり、より多くお話を聞かせて頂きたいと存じております。

このような機会が当会にとって大事な部分であると確信するとともに今後大勢の方にご出席頂けるよう尽力



し、交流関係を強化していくことが神奈川県神道青年会を未来へと紡ぐことになると改めて気づく一日となりました。

平和の祈りinインパール 現地視察

副会長 柳田崇道

十二月二日～五日迄、守屋実行委員長を始め計五名にてインド共和国マニプル州インパールへ訪問し、現地視察並びに事前打合せを実施致しました。

二日十一時に成田空港を出発し、同日十八時頃デリーへ到着致しました。その後ホテルへ移動し、会議室などの

設備を確認致しました。翌日は早朝五時半の国内線でデリーを出発し、九時十五分頃無事にインパールに到着致しました。

到着後はまず打合せの為慰霊祭の会場となりますインパール平和資料館へ向かいました。ここは、日本財団が出資し令和元年六月に開館したばかりの真新しい施設であり、インパール作戦とマニプル州の伝統文化について展示解説がなされております。またこの場所は日本軍が最もインパールに近づいた通称レッドヒルと呼ばれる丘の麓に建っております。

この資料館はマニプル観光協会よって運営されており、事務局長ジョイレンバ氏を始め四名との打合せを行いました。本企画については非常に友好的に受け入れて頂き、現地の方も是非参列させて欲しいのと申し出や、神饌の手配からマニプル州の伝統宗教との交流を提案頂くなど大変有意義な打合わせとなり、本番を待つばかりとなりました。

打合せの後には、資料館に隣接する平成六年日本政府により竣工したインド平和記念碑と現地有志により建立されたインパール作戦戦没者勇士の碑に於いて供物を捧げ拝礼致しました。

この地域はミャンマーと国境が近いこともあり戦後は治安が不安定であっ



ため、平成二十一年迄外国人の入城が厳しく制限されておりました。その為激戦が交わされたにも関わらず神道での慰霊祭が未だ執り行われておりません。この機会に慰霊祭を厳肅裡に肅行し、更なる恒久な世界平和へと導いていけるよう祈りを捧げたく存じます。

新 年 会

親睦部 副部長 阿部友哉

令和二年一月二十二日、横浜駅西口「コーンバレー横浜店」にて、川辺会長以下会員四十名参加のもと恒例の新年会を開催致しました。令和最初の新年会という事もあり、多くの会員にご参加いただき楽しく賑やかな会とするべく、例年とは少し違った雰囲気の中で執り行いました。

開会に先立ち川辺会長より、会員各々が年末年始を乗り切った事への労い、また七〇周年記念事業に向け更なる一致団結を図っていく旨のご挨拶を頂きました。終始賑やかな雰囲気の中で各々杯を交わしつつ、各神社、事業



の情報交換等の話題に花を咲かせ、楽しくも有意義な宴となったのではないかと感じております。中締めとして佐野担当副会長よりご挨拶を頂き、無事に閉会となりました。残り僅かとなった今期の事業と周年記念事業の無事貫徹に向け、会員相互の団結をより一層深められた事と思います。

神奈川県神道青年会は創立七〇周年を迎え、「生児八十綿連うみのこのやそつづき」と掲げた活動主題の下、川辺会長を中心に先輩諸賢の数多の活動とそこに込められた想いを次世代に繋ぐとともに、新しい時代に合わせた事業を展開しております。そういった中で、親睦部は今後とも会員相互の親睦を深め、より強固な団結力を生み出す一助となるよう諸事業を進めて参ります。

神青協一都七県協議会
研修旅行会

事務局 局長 松尾寛一

二月十二日より十三日にかけて、神青協一都七県協議会主催の研修旅行会へ、当会より会長始め五名に参加して参りました。

本年の研修旅行は、昨年の台風で大きな被害を受けた千葉県へ、被災地の視察及び現地の神職さんより被災当時

から現在に至る状況を拝聴すべく、千葉県内でも最も被害の大きかった南房総・布良地域の神社へと参りました。

初日は房総半島の先端、安房神社より、布良崎神社、高家神社へと巡り、正式参拝、現状視察を致しました。

各社とも、ご奉仕されている神職の皆さんの行き届いた清掃もあり、一見すると境内は綺麗に整い、台風の爪痕は跡形も無いように感じましたが、倒木によって粉砕された社殿の一部や木だびニールシートの張られている瓦屋根、建物が吹き飛ばされて基礎のみ残っている無残な姿など、台風の惨禍の跡が随所に残っており、改めて自然への畏怖を感じた次第です。

修繕に関しても、技術を持つ大工さんが少なく、また民家を優先して復旧にあたっていることもあり、完全に元に戻るのには数年先だろうとお話を伺いました。

何より、今回の台風で御神木が倒れてしまったお宮が多くあることを一番に嘆いておられました。

先般、当会の学びのプログラムで、東日本大震災に関する復興のお話を聞いた際も感じたことではありますが、自身の家屋が住めなくなってしまうと、それを機にその地を離れられてしまう方も少なくない様で、近年の過疎化も含め、地域の氏神様を護り続ける

ことが務めである我々神職にとつて、非常に厳しく、そして考えさせられる現実を目の当たりに致しました。

二日目は都内へ戻り、神田神社に正式参拝をした後、創建一三〇〇年事業として建設された文化交流館のご案内を頂きました。

また、神田神社権禰宜岸川雅範先生による御朱印の歴史についてのご講義、今現在の神社や神職の在り方、スタイルについてのディスカッションの場を得る事ができ、他県青年神職との交流を深めると共に大変有意義な二日間を送らせて頂きました。



多くの神社仏閣・公共施設に採用！

無公害性防火難燃剤・ファイヤーレターデント防燃水

JIS A 1001 準拠特許会社
本工法の特許は、エス・ピー・シー・工業株式会
社によるものであり、他社からの模倣を厳禁す

[薬剤効果]
 ・防火難燃性能
 ・防腐効果
 ・防蟻効果

ファイヤーレターデント防燃水施工手順
 ① 社館に長年蓄積、堆積した「塵」と「泥」を可能な限り除去
 ② コート撤換標準仕様 フラッシング・エアブロー又は同等以上清掃。※水洗不可
 ③ 塗布職人が足場結立から全ての清掃まで一貫作業
 ④ 防燃剤は工場規定量(1.0ml/㎡)塗布

国土交通省指定
不燃材料準不燃材
耐火規格材の注文承ります

龍光元・コトコ建築株式会社
 加工工程J工業株式会社
 羽の宮建設事業協同組合

京都府白河町
 〒646-0204 龍光元株式会社 専任事務所
 TEL: 043-342-8989 FAX: 043-342-8990
 〒595-0001 龍光元株式会社 大阪支店
 TEL: 043-342-8989 FAX: 043-342-8990

仲執り持ちとして

（神社での講座・ワークショップの試み）

弥生神社 権禰宜 池田 奈津江

弥生神社では毎月「大祓詞」書写会、

ある。

宗教・文化講座、神社・神道や日本の文化・風習、五節句にちなんだワークショップを開催している。本稿ではそれら行事の内容を紹介しつつ、参加者の反応や交流の在り方を思い起こし、あらためて活動の意味や目的について、神社と現代社会に生きる人々を結びつけるという面での神職の役割について考えてみたい。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況にある現在、今後の活動の方法や指針を考えるヒントを少しでも見出せればと思う。なお、弥生神社での行事開催にあたっては社内や周囲の方々に多大なる協力と助言と理解を得ており、それゆえに実現、継続しているが、ここでの考えや意見は私個人によるものである。

昨年末、京都の同志社大学において「現代における宗教の役割研究会」主催の第六十六回「コルモス会議」が開催され、二日目の報告会（テーマ「この世の安らぎとあの世の安らぎ」）の中で、「再生する場所としての神社——非日常的な言葉とつながりの創出——というタイトルで発表する機会があった。現代社会の様々な課題における神社の「場所」としての役割と、仲執り持ちとしての神職の役割について、弥生神社での活動とその目的とともに述べた。当会議の初日には公開講演会（テーマ「日常からの脱出／日常への帰還」）があり、なかでも杉村靖彦氏（京都大学教授）による「（ここに）いる」ことの絶望的な困難——（宗教哲学）

からの考察」と題された講演が強く印象に残った。戦後の「死」を語る言葉の喪失と、生きる場所をめぐる問題との深い関わりが語られたが、私自身の報告と響き合うものがあり、我が意を得た気がした。現代社会のもつ閉塞感、自死や孤独死問題の根底にある「生きづらさ」や居場所の喪失は、自己の存在や生（死）の不確かさともにある。人々の心の安らぎは、その状態を克服した先に、過程や試みのうちにあり、これまでも神道をはじめ宗教はそこで一定の役割を果たしてきたのではないだろうか。

人は様々な関係性のなかで自己を確認する。本稿の結論を先取りすれば、講座やワークショップを通じて、参加者自身が、自然と密な古の文化、あるいは異文化に触れ追体験することで、時空を超えて存在する他者（異文化に生きる人々・死者や先祖など）や、目に見えない存在（神）、あるいは自然とのつながりを認識することができるとのではないかと考える。さらにそこには地域や年齢を超えて場に集う人々同士の交流がある。このような営みを重ねる基盤として、神社という場所のもつ可能性を指摘しておきたい。

最初の試みは「大祓詞」の書写会だった。六年前に始まり現在では月に二回、開催している。書写会を始めたきっかけは、東日本大震災の被災地（宮城県牡鹿郡女川町）において仮設住宅を訪問するボランティア（KTSK）（傾



御装束・御 簾・神 輿
神 祭 具 調 度

宮内庁御用達 京装束・京神具の店

有限会社 竹 重

〒600-8324 京都府京都市下京区東側町510番地

Tel 075-371-0394(代)

Fax 075-341-6966

ご注文専用フリーダイヤル 0120-37-0394

神祭具 授与品 記念品 奉製



株式会社 神路社

本社

〒516-8611 三重県伊勢市岩瀬2丁目5番29号(私書箱第26号)

電話番号 0596-24-5858 / FAX 0596-24-5110

E-mail info@kamijisya.co.jp

神 苑(東日本営業所)

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1丁目26番14号 ACTビル4階

電話番号 03-3280-6720 / FAX 03-3280-6721

E-mail info-tokyo@kamijisya.co.jp

http://www.kamijisya.co.jp

聴に取り組む宗教者の会」での経験である。活動の中で仮設住宅の集会所で写経会を開催した折、部屋に満ちる心地よい静寂と写経を終えた参加者の晴れ晴れとした表情に心を打たれた。このとき仲間である僧侶の方が、神社での開催を勧めてくれたのだ。

「大祓詞」の書写会では、集中できて心が落ち着く、忙しさが忘れられるという感想を聴く。「両親の供養」になったと話す方、眠る前に少しずつ書写をするようになったという方もいた。書写の間は自己内対話でありながら、大祓詞を通した異世界との対話も内包しているといえよう。書写を終えると、お茶をしながら参加者と向き合い話を聴く時間をつくっている。

年間、数回開催するお守り袋作りや勾玉守り作り、御朱印帳作りなどのワークシヨップでは、まずは参拝をし、テーマについて学ぶことから始める。季節に合わせて開催するワークシヨップでは、雛人形や葉玉、菜萸囊(しゅゆのう)、熊手や祝箸などを作ってきた。ここでは素材となる植物に五感で触れ、古来の風習を学びながら追体験する。古の人たちの折りや願いに共感する。心と技を通した先人とのつながりや、歴史や自然のサイクルの中にある自分に参加者は実感するだろう。「癒される」という感想には、体験を通して得る心の落ち着きと安らぎを読み取ることができる。

三年前には宗教・文化講座をスター

トさせた。「生と死をめぐる」民俗・考古編」「古代エジプト人の精神世界」「インドの社会と宗教」「蚕の世界」「古代の土の器」といった連続講座、ニホンオオカミ信仰をめぐるスライドトークなど、研究者や専門家の方々と講師に迎えて開催している。昨年スタートした講座「神道を考える」では、初回と第二回は中村聡先生(星川杉山神社権禰宜)に「神道のお葬式―魂のゆくえ―」、「神道のお葬式―神々の物語と先祖の霊、神職たちのこころみ―」をテーマにお話いただき、ワークとして紙垂作りや祓詞の書写を行った。昨年十一月には、加瀬直弥先生(國學院大學准教授)に「大嘗祭は何のために行われるのか」と題してお話いただいた。また今年三月には、黒崎浩行先生(國學院大學教授)に「災害からの再生と神社」というテーマでお話いただき、講義前には参加者とともに東日本大震災において犠牲になられた方々の慰霊・被災地の復興を願う「大祓詞」を奏した。いずれの講座も座談と質疑応答の中で、参加者がテーマをさらに掘り下げて考え、課題を共有することができた。

一連の講座はテーマについて思考するための場を提供するのが目的であり、根底にあるおもなテーマは「死生観」である。他宗教や異文化の人たちの多様な価値観を、葬送や祭祀のありようを通して知る。他者の死生観に触れ、自分自身の死生観を育てていく。

参加者からは感嘆の声や学ぶ喜びの声を聴く。現代社会では、日常のなかで死と生、病、自分の内奥について語ることは憚れることが多く、場が少ない。目に見えない、見えにくいものを語る言葉と知識を得る。それは思考の領域を広げ、自分自身の世界観の枠を取り払う体験でもあり、生きる活力にもなるだろう。さらに言えば閉塞感から抜け出し風通しの良い社会を描けるだろう。その基盤として神社が果たす役割は大きいと感じている。

最近では、小規模で素朴な形に立ち戻ろうと「小さな手仕事の会」を毎月開催している。手芸を通して心の安らぎと集いの場が生まれることもまた、東日本大震災の被災地で教えられた。仮設住宅に住む女性たちが作る吊るし雛や布草履や小さな作品群は、厳しい状況の中での手仕事の尊さを伝えてくれた。今年三月に企画したカラフルガーゼでマスクを作る会は、感染症拡大の影響で(その他の行事も同じく)中止になった。材料を郵送でお分けしようと呼びかけたところ、地域内外から八十件を超える反応があった。申し込みの段階からメールとハガキによるやり取りが始まり、なかには自粛生活の現状や不安な気持ちが続けられているものもあった。御札の言葉とともに多く添えられていたのは、また「お参りに行きます」という言葉だった。作品の画像とコメントをSNSに上げる方も多く、ワークシヨップの場で見られた参

加者同士のコミュニケーションがオンラインでも形成されていった。メッセージを通して、多くが失われた日常の中で自分にとって価値あるものに気づかされていると感じる。身近な自然や人の存在の尊さ、神社に参拝できる日々もそうである。この時代の局面において、参拝することができない人たちと神社、あるいは人同士のつながりをどう育て守っていくのか、直接の体験やコミュニケーションがままならない現在、新たな方法や考え方の転換を伴いながら模索する必要があるだろう。

◆ 授与品全般・神具 ◆



創業安政式年

株式会社秋江

御守袋・錦守・木札・紙札・絵馬・土鈴
朱印帳・根付・神具・御装束・記念品

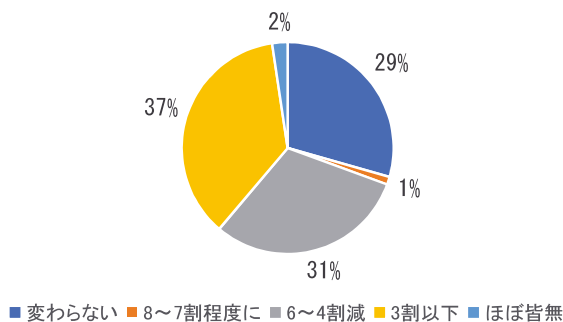
〒602-0056

京都市上京区堀川通上立売下ル北舟橋町835

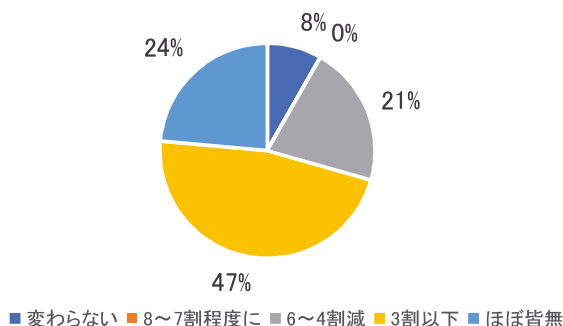
TEL 075(432)2255(代) FAX 075(441)8011

<http://www.akie-net.com>

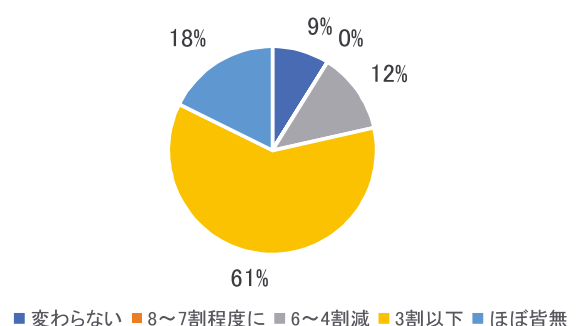
一般参拝者の人数はいかがですか (回答85社)
(2月・3月と比較して賽銭額の変化はどれほどですか)



昇殿祈願・祈祷および外祭の状況は
いかがですか (回答85社)



御朱印を受けられる方の状況はいかがですか (回答79社)
(書き置きのみも含めて)



これまでの祭事・行事についてお答えください
(大祭は別途質問します) (回答85社)

恒例祭礼で総代などが多数参列する行事は参列を取りやめ、神職のみで実施	31社 (35.6%)
恒例祭礼で総代等の参列を、人数を減少して実施	39社 (44.8%)
恒例祭礼ですべて中止したものがある	8社 (9.2%)
一般の昇殿祈願・御祈祷を停止している	8社 (9.2%)
一般の昇殿祈願・御祈祷は実施しているが、祈願者にはマスクを着用させている	48社 (55.2%)
一般の昇殿祈願・御祈祷は実施しているが、換気や着席距離の配慮をしている	35社 (40.2%)
結婚式などの予約があったが中止したものがある	10社 (11.5%)
地鎮祭等の出張祭典の受付は停止している	11社 (12.6%)
地鎮祭等の出張祭典は、感染防止に注意しながら実施する方針	61社 (70.1%)
神事以外の神社での行事で中止したものがある	36社 (41.4%)
総代・役員・その他の会議・会合で中止したものがある	55社 (63.2%)
総代・役員・その他の会議を文書による会議で実施した	40社 (46.0%)

境内や日常の参拝者に対応して、実施している
ものがあればお答えください (回答85社)

一般参拝を停止	0社 (0%)
授与所・社務所・参集殿・会館等を閉鎖	11社 (13.4%)
参拝停止や授与所閉鎖はしていないが参拝者は減っている	43社 (52.4%)
鈴緒の撤去	35社 (42.7%)
手水の柄杓を撤去	59社 (72.0%)
御朱印 (朱印帳のやりとり) の停止・または書き置きのみ	40社 (48.8%)
消毒の実施 (鈴緒その他参拝者の触れる部分)	33社 (40.2%)
オンラインでの祈祷その他の受付	5社 (6.1%)
御祈願済みの神符守札や授与品・撤下品等の郵送・宅配	10社 (12.2%)
御祈願、神事のネット中継	2社 (2.4%)

神職・職員の対応についてお答えください (回答85社)

マスク使用・手洗い等の徹底 (社務所・授与所・境内)	77社 (95.1%)
神前・神事中もマスクをする	26社 (32.1%)
出社の人数を削減 (時差出勤などを含む)	20社 (24.7%)
電車通勤の停止	8社 (9.9%)
職員 (非常勤・臨時) の休業・解雇	9社 (11.1%)
常勤神職の休業・解雇	5社 (6.2%)
新規採用 (本年度) の中止・見合わせ・延期	2社 (2.5%)



緊急事態宣言を受けて
の神社の対応状況調査
(神奈川県神社庁広報委員会調べ)

新型コロナウイルス蔓延による緊急
事態宣言発出を受け、四月七日以降の
県内神社の対応をご回答頂きました。
今会報に、速報として回答の一部を
掲載致します。全文は七月発行の庁報
「かながわ一二六号」をご覧ください。
(アンケート結果は五月二十日現在)

総回答社数 八九社
県内本務社数 一八〇社

～事業品のご案内～

境内の彩りに

朱傘 32,000 円／朱傘台座 33,000 円

朱傘・台座セット 63,000 円

【朱傘】
直径 200cm、高さ 254cm、台座使用時 255cm

【台座】
上正方形 29cm×29cm、下正方形 47cm×47cm、
高さ 55cm、穴内径 4.8cm

祭典や結婚式の参進、
七五三などにお勧めします。

※縁台は付属していません

烏帽子用汗取りパッド

5 枚入り 2,000 円

東レの抗菌防臭素材セベリスを使用したパッド。
汗や皮脂のべとつき不快感を軽減します。
化粧移りが気になる女性の額当や冠にもオススメです。



※額当の幅に合わせてカットしております

お食い初めセット(化粧箱入り)

【化粧箱のサイズ】

膳なし 21.2cm×19.6cm×7cm

膳あり 24.3cm×20.7cm×11.5cm

膳なし 1,500 円／膳あり 2,000 円



鎮物各種

※紙製、木製は
10 体以上から承ります。



紙製 200 円／木製 700 円／陶器 角型・丸型各 1,500 円

白衣、襦袢

冬物・夏物共にご用意しております。

白 衣

品番	品名（白衣）	定価
X 2	夏物（テトロン、麻）	7,000 円
X 3	冬物（ウール）	9,000 円
X 4	合物（ブロード）	7,000 円
X 5	合物（ポリエステル）	7,800 円

襦 袢

品番	品名（襦袢）	定価
S 4	合物（サラシ）	3,000 円
S 5	夏物（クレープ）	3,200 円
S 6	冬物（天竺素材）	3,200 円
S 7	冬物（ネル）	3,500 円

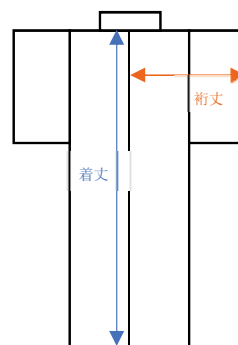
白衣サイズ表

（単位 cm）

	小寸	中寸	大寸	特大寸	女小寸	女中寸	女大寸
着丈	130	135	140	145	115	120	125
衿丈	66.5	68	69	70	63	65	67

襦袢サイズ表 （単位 cm）

	M寸	L寸	女寸
着丈	76	82	67
衿丈	65	68	60

**福助足袋**

縫製が良く丈夫な日本製。

注文は5足から承ります。

品番	品名	サイズ（単位 cm）	定価
1303	足袋（ネル）	22.0～28.0（0.5 刻み） 29.0～30.0（1.0 刻み）	1,000 円
3303	足袋（サラシ）	21.5～28.5（0.5 刻み） 29.0～30.0（1.0 刻み）	1,000 円

※足袋の価格を改定致しました。御了承の程お願い致します。

その他事業品

品名	定価
国旗セット（縦 71cm、横 89cm、ポール 150cm）	2,000 円
浅沓 小（25cm 以下） 中（25～26cm） 大（26～27cm） 特大（28～29cm）	19,000 円

お申し込み、お問い合わせは F A X 又はメールにて承ります。
F A X の場合は別紙申込用紙をご使用下さい。
送料、振込手数料は別途ご負担頂きますようお願いします。

〒253-0195 高座郡寒川町宮山 3916（寒川神社内）立岩秀夫

電話：0467-75-0004 FAX：0467-75-0071

e-mail:kanagawa_sinseikai_jigyoubu@yahoo.co.jp



注文メール作成に！

編集後記

皇月となり、新緑が美しく、吹き抜ける風が心地よい季節となりました。皆様のお手元に『会報 神奈川 第六九号』をお届け致します。

御社頭御多端の折、御協力を賜りました皆様に厚く御礼を申し上げます。神奈川県神道青年会は創立七〇周年を迎える佳節であります。二月頃から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界規模の危機の様相を呈しており、我が国では東京五輪が延期となりました。当会においても感染拡大の影響で予定していた記念事業の延期が相次ぎましたこと、とても残念に思います。九月の七〇周年記念大会も開催の延期が決まり悲歎に呉れています。

この広報部会の一員として、神社庁とはまた違った視点で活動に携わることができ、大変嬉しく思います。限られた紙面の中で可能な限り様々なことをお伝えできるよう努めておりますが、若輩者故に皆様の忌憚のない御意見を頂戴できれば幸いです。

新型コロナウイルス感染症のため、緊急事態宣言下のこの状況に只々早期の鎮静化を祈るばかりでございます。皆様がともに頑張りたいと思います。宜しくお願い申し上げます。

広報部副部長 齋藤真梨奈

繊細な技術と日本の伝統を今に継ぐ
授與品の奉製

古都 奈良の
株式会社 大和奉神堂
〒630-8434 奈良市山町782番地
TEL 0742-62-3235(代)
FAX 0742-62-3228
E-mail: hoshindo782@yahoo.co.jp
HomePage: <http://www.yamato-hoshindo.net/>



納札箱(台付)(桐材)
⑤開口90×奥行52×高さ80cm 44,000円
⑥開口60×奥行36×高さ80cm 38,500円

株式会社
民俗工芸
TEL 0120-534-550
FAX 0120-872-550

〒857-1162長崎県佐世保市御幸町18-1
土曜日も平常通り営業致しております。



別注法承ります。

宮内庁 神社本庁・神奈川県神社庁・各県神社庁
全国神社・小笠原流弓馬術礼法教場

御用達



株式会社 **大槻装束店**

代表取締役 大槻 奈津子

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-13-2

<http://www.ootsuki-shozokuten.com>
E-mail: info@ootsuki-shozokuten.com

千代田線・湯島駅徒歩4分/銀座線・末広町駅徒歩6分

電話：03-3835-3201 FAX：03-3835-0617



社頭授与品専門奉製所

(主要奉製品意匠権所有に付、侵害厳禁)

常陸神宝(株)

〒310-0902 水戸市渡里町 835-1

☎ (水戸) 029 (227) 0511 (代)
FAX (水戸) 029 (227) 0512



全国社寺 授与品 調度品 総合奉産

京都・吉祥院
東和奉産株式会社

代表取締役 松尾正貴

本社・工場 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町七

電話代表 (075) 691-3000

FAX (075) 691-3300

E-mail info@towahosan.jp

各種御守・授与品全般・デザイン制作承ります。

にしき
有限会社 **西紀**

TEL: 072-810-8133

FAX: 0120-71-8135

FAX 24 時間受付

〒576-0034 大阪府交野市天野が原町 4-1-7

メール: mytom@chive.ocn.ne.jp